



Oracle® Hyperion Shared Services

リリース 11.1.2.3.000

Readme

ORACLE
ENTERPRISE PERFORMANCE
MANAGEMENT SYSTEM

目次

目的	2
このリリースでの新機能	2
インストール情報	4
サポートされているプラットフォーム	4
サポートされている言語	4
サポートされているこのリリースへのパス	4
このリリースで修正された問題	5
既知の問題	9
ドキュメントの更新事項	14
ドキュメントのフィードバック	14
アクセシビリティの考慮事項	15

目的

このドキュメントには、Oracle Hyperion Shared Services のこのリリースに関する重要な最新情報が含まれています。Oracle Enterprise Performance Management System をインストールする前に、この Readme をよくお読みください。

このリリースでの新機能

このリリースのインストール、アーキテクチャおよび配置の変更に関連する新機能は、Oracle Enterprise Performance Management System Readme のこのリリースでの新機能に関する項を参照してください。

リリース 11.1.2.0、11.1.2.1 または 11.1.2.2 を使用している場合、これらのリリースで追加された新機能のリストを確認するには、Cumulative Feature Overview ツールを使用します。このツールを使用すると、現在の製品、現在のリリース・バージョンおよびターゲット実装のリリース・バージョンを識別できます。1 回のクリックで、現在のリリースからターゲットのリリースまでに開発された製品の機能に関するカスタマイズされた一連の概要が短時間で生成されます。このツールはこちらにあります:

<https://support.oracle.com/oip/faces/secure/km/DocumentDisplay.jspx?id=1092114.1>

全般

リリース 11.1.2.3 のドキュメント・ファイルは、MOBI ファイル(以前から利用可能)と EPUB ファイルの 2 つのモバイル形式で使用できるようになりました。EPUB ドキュメント・ファイルは、すべての Apple モバイル機器(iPad、iPhone および iPod Touch)でサポートされています。EPUB ファイルは多くのモバイル機器でサポートされますが、Apple モバイル機器でのみ動作保証されています。その他のデバイスは今後動作保証される予定です。

Shared Services

- ログ分析ユーティリティ。ログ分析ユーティリティという新しいユーティリティが EPM System の問題のトラブルシューティングに使用できます。このユーティリティの使用方法は、Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Troubleshooting Guide を参照してください。
- Oracle Hyperion Shared Services Console と Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace との統合。Shared Services Console は EPM Workspace の一部として表示されます。Shared Services Console には、EPM Workspace のメニュー・オプションを使用してアクセスします。
- ダイナミック・ヘルプ: Shared Services にはダイナミック・ヘルプ・システムが実装されており、同様にダイナミック・ヘルプ・システムが実装されている EPM System コンポーネント全体で情報を検索できます。

ライフサイクル管理

Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System ライフサイクル管理

11.1.2.3 は、次の新機能を提供します。

- Shared Services Console のファイル・システム・ノードからアーティファクトをダウンロードすることで、アプリケーション・アーティファクトをある環境から別の環境に移動します。ダウンロードされたアーティファクトは、ZIP ファイルに保存され、別の環境にアップロードできます。
- リリース 11.1.1.4 にパッチを適用した後、データ・セットをリリース 11.1.2.3 にインポートします。リリース 11.1.1.4 に適用する必要があるパッチは、一般にまだ使用できるようになっていません。
- ライフサイクル管理では、Oracle Essbase Studio をサポートするようになりました。
- EPM System 内のアーティファクトに対して行われた変更を識別する、アーティファクトの変更レポート。このレポートは、ライフサイクル管理ユーザー・インタフェースおよびコマンドライン・ユーティリティを使用して生成できます。
- ライフサイクル管理ユーティリティの新しいコマンドライン引数
 - `-ms` は、移行定義ファイルによって定義された最終移行後にシステムで変更されたアーティファクトをリストします。
 - `-lmu username` は、特定のユーザーによって変更されたアーティファクトをリストします。
- ライフサイクル管理でサポートされているアプリケーションをある環境から別の環境に簡単に複製できる新しいコマンドライン・ユーティリティ。
 - `epm_cloneexport`
 - `epm_cloneimport`
- 次のような新しいアーティファクトをサポートします:
 - Oracle Essbase: データベース・プロパティ、ディスク・ボリューム、テーブル・スペース、ドリルスルー定義、カスタム定義マクロおよび関数
 - Oracle Hyperion Financial Data Quality Management Enterprise Edition: ユーザー設定、クエリー定義、レポート定義、レポート・グループ、ロジック・グループ、確認ルール・グループ、確認エンティティ・グループ、セキュリティ設定
 - Oracle Hyperion Financial Close Management: Close Manager 用に追加されたフィルタ、Close Manager および Account Reconciliation Manager 用に追加されたユーザー・プリファレンス
 - Oracle Hyperion Financial Management: アプリケーションのベース・レベル・データ、アプリケーション・モジュール構成
 - Oracle Hyperion Planning: アドホック・オプション

インストール情報

EPM System 製品のインストールに関する最新情報は、Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Readme を参照してください。EPM System 製品をインストールする前に、この情報をよく確認してください。

サポートされているプラットフォーム

EPM System 製品のシステム要件およびサポートされているプラットフォームに関する情報は、Oracle Enterprise Performance Management System Certification Matrix にスプレッドシート形式で提供されます。このマトリックスは、OTN の「Oracle Fusion Middleware Supported System Configurations」 ページに掲載されています:

<http://www.oracle.com/technetwork/middleware/ias/downloads/fusion-certification-100350.html>

サポートされている言語

EPM System 製品のサポートされている言語に関する情報は、Oracle Enterprise Performance Management System Certification Matrix の「Translation Support」 タブにスプレッドシート形式で提供されます。このマトリックスは、OTN の「Oracle Fusion Middleware Supported System Configurations」 ページに掲載されています:

<http://www.oracle.com/technetwork/middleware/ias/downloads/fusion-certification-100350.html>

サポートされているこのリリースへのパス

EPM System は、次のリリースからリリース 11.1.2.3 にアップグレードできます:

注意: アップグレードの手順は、Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide の EPM System 製品のアップグレードに関する項を参照してください。

表 1 サポートされているこのリリースへのパス

アップグレード・パスのリリース: 元	リリース 11.1.2.3 へ
11.1.2.x	リリース 11.1.2.3 へのメンテナンス・リリースを適用します。 Financial Close Management の場合、メンテナンス・リリースの適用はリリース 11.1.2.1 および 11.1.2.2 からのみサポートされています。
11.1.1.4.x	リリース 11.1.2.3 にアップグレードします。
リリース 11.1.1.0.x から 11.1.1.3.x	リリース 11.1.1.4 へのメンテナンス・リリースを適用した後、リリース 11.1.2.3 にアップグレードします。
リリース 9.3.3.x	リリース 11.1.2.2 にアップグレードした後、リリース 11.1.2.3 へのメンテナンス・リリースを適用します。

アップグレード・パスのリリース: 元	リリース 11.1.2.3 へ
複数のリリースが含まれている環境。1 つの Shared Services のインスタンスが含まれている環境、または 2 つの Shared Services のインスタンスが含まれている環境も該当します。	Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide の EPM System 製品のアップグレードの章に記載されている、複数のリリースを含む環境からのアップグレードに関する項を参照してください。

注意: リリース 9.2.0.3+、9.3.0.x、9.3.1.x(Essbase 9.3.1.4.1、9.3.1.5、9.3.1.6 および 9.3.1.7 を除く)または 11.1.1.x から始める場合、まずリリース 11.1.1.3 にアップグレードした後、リリース 11.1.1.4 へのメンテナンス・リリースを適用してから、リリース 11.1.2.3 にアップグレードすることをお勧めします。それより前のリリースから始める場合、開始リリースからのアップグレードが直接サポートされるリリースのうち最新のものにアップグレードすることをお勧めします。

Essbase と Shared Services 間のセキュリティの同期は、リリース 9.3.1.4.1 以降の Essbase リリース 9.3 では削除されました。ただし、Essbase および Shared Services リリース 11.1.1.3 では、現在もセキュリティ情報が同期されます。このため、Essbase リリース 9.3.1.4.1、9.3.1.5、9.3.1.6、9.3.1.7 のいずれかを使用している場合は、まずすべての製品をリリース 9.3.3 にアップグレードした後、リリース 11.1.2.2 にアップグレードしてから、リリース 11.1.2.3 へのメンテナンス・リリースを適用する必要があります。

このリリースで修正された問題

サブトピック

- [全般](#)
- [Shared Services](#)
- [ライフサイクル管理](#)

この項では、リリース 11.1.2.3.000 で修正された不具合について説明します。以前のリリースで修正された不具合のリストを確認するには、Defects Fixed Finder を使用します。このツールを使用すると、所有している製品および現在の実装のリリースを識別できます。1 回のクリックで、修正された不具合の説明および関連するプラットフォームとパッチ番号のカスタマイズされたレポートが短時間で生成されます。このツールはこちらにあります:

<https://support.oracle.com/oip/faces/secure/km/DocumentDisplay.jspx?id=1292603.1>

全般

- 13807337 – Internet Explorer 9: Shared Services に Internet Explorer 9 を使用してアクセスした場合、ユーザー・インタフェースのフレームが一部崩れて表示されることが確認されています。

- 13807334 – Internet Explorer 9: Internet Explorer 9 を使用して一部のタスクフロー画面にアクセスしたとき、現在のタブから別のタブにフォーカスが移動します。
- 13803650 – Internet Explorer 9: Shared Services 内でアクションを実行したユーザーおよびグループについて監査レポートを生成しようとする、Java スクリプト・エラーが表示されます。
- 13808793 – Internet Explorer 9: [Tab]キーを押して、あるフィールドから別のフィールドへフォーカスを移動する場合、Internet Explorer 9 を使用していると設計どおりに機能しません。
- 14780534 - 「[Delete]」をクリックしてカーソルの右側の文字を削除すると、ユーザーまたはグループが削除されることがあります。

Shared Services

- 10624324 – UNIX 環境で実行されているライフサイクル管理機能で、移行ジョブに対して重複するプロセスが起動される場合があります。
- 10016143 – ライフサイクル管理での移行は、Windows の予約名(CON、PRN、AUX、NUL など)と同じ名前のアーティファクトおよびフォルダで失敗します。予約名の詳細なリストは、オペレーティング・システムのベンダーのサイトを参照してください。
- 10190841 – 「削除」オプションを使用して Shared Services アーティファクトをインポートすると、管理ユーザー(Shared Services 管理者)に割り当てられている Essbase の役割がプロビジョニング解除されます。
- 11714345 – アクセシビリティ・モードで、「ユーザー・プロパティ」、「グループ」、「役割」および「委任リスト」画面に、切り詰められたリストが右側にスクロール・バーを伴って表示されます。
- 11777591 – 単一のアーティファクトをインポートする場合、インポートに失敗しました java.lang.NullPointerException が表示されます。
- 11799522 – EPM System ユーザーがネイティブ・ディレクトリから、または構成済外部ユーザー・ディレクトリから削除されたとき、EPM System セキュリティに通知されません。
- 12415868 - Shared Services Console の「グループ・フィルタ」で「削除」を押すと、前に選択したグループが削除されます。
- 13330297 - 静的 CSS.xml は、EPM System のインストール・ディレクトリに格納されます。また、ネイティブ・ディレクトリの更新は廃止されていますが、そのインストール場所からは削除されていません。
- 13635596、13635615 – 一部のメッセージがローカライズされていません。
- 13863989 – Shared Services Console に誤った著作権情報が表示されます。
- 15974441 - ユーザーのアクティブ化および非アクティブ化に使用されるボタンがグレー表示されるため、ディレクトリ・マネージャの役割がプロビジョニングされたユーザーは、ユーザーを非アクティブまたはアクティブにできません。

- 14404167 - Shared Services では、Oracle Hyperion Financial Data Quality Management の役割として「統合の作成」および「統合の実行」がリストされま
す。

ライフサイクル管理

サブトピック

- [全般](#)
- [Planning](#)
- [FDME](#)
- [Reporting and Analysis](#)
- [Financial Reporting](#)

全般

- 11843712 - Windows 環境でライフサイクル管理ユーティリティを使用して移行
を実行している場合、マップされたネットワーク・ドライブのインストーラ
を使用して環境がインストールされていた場合、エラー: ODL-52016:
FAILURE TO ROTATE LOG FILE が表示される場合があります。
- 12432772 - ライフサイクル管理で、ソース環境とターゲット環境が一致しない
移行が許可されます。
- 13803215 - リリース 11.1.2.0 からリリース 11.1.2.2 へのメンテナンス・リリ
ースを適用する場合、Essbase アプリケーションが、プロビジョニング・ユ
ーザー・インタフェース、または Shared Services Console のアプリケーション・
リストに表示されません。
- 13850286 - データのインポート先の環境にアプリケーションが存在しない場
合、ライフサイクル管理はユーザー定義役割とそのプロビジョニング・デ
ータのインポートに失敗します。
- 13898763 - エクスポート用に選択されたフォルダ内のアーティファクト名に、
フォワード・スラッシュまたはバック・スラッシュ文字(/、\)が含まれている
場合、そのフォルダ内のすべてのアーティファクトについて、アーティファ
クトのエクスポート操作が失敗します。
- 13899538 - 特殊文字を含むタスク・タイプのインポート中、問題が発生するこ
とが確認されています。選択したタスク・タイプの 1 つのみがインポートさ
れても、インポート操作は成功とレポートされます。
- 13899602 - ライフサイクル管理の ls コマンド・ライン・ユーティリティで、
import.xml の内容を情報およびリソース・レベルで表示する際、フォルダ名
が表示されません。
- 15869790 - ライフサイクル管理に、次元が最後に変更された時間が表示されま
せん。次元が変更された(日付と時刻ではなく)日付のみが表示されます。

Planning

- 7454233 – Oracle Hyperion Business Rules アーティファクトの移行後に、ソース環境とターゲット環境の XML 間で差異が発生する場合があります。この差異は、宛先環境に追加されるシーケンスおよびアプリケーションの順番により発生します。また、宛先のシーケンスまたはアプリケーションの数によっても差異が発生します。たとえば、ソース・アプリケーションに 1 から 5 で始まる ID を持つ 5 つのシーケンスがあり、宛先にすでに 3 つのシーケンスがある場合、インポート時に、シーケンスは宛先環境において 4 で始まるように番号が変更されます。このため、ソースと宛先の XML 間で値に差異が発生します。
- 9363364、9354048 – アーティファクト・パス名が長いため、フォームおよびメニューのインポートに失敗します。Windows の制限のため、アーティファクト・パスが 256 文字を超える場合、ライフサイクル管理では移行できません。
- 10282522 – ライフサイクル管理機能を使用して、<または>=演算子を含むルール構文のビジネス・ルールをエクスポートすると、演算子の間に空白が追加され(<=など)、ターゲット環境でのルールの起動が失敗します。
- 13373739 – ライフサイクル管理を使用して、エンティティ次元のメンバー数が 150,000 を超えているサイズの大きいアプリケーションをインポートすると、メモリー不足エラーが発生する場合があります。
- 13406410 – ライフサイクル管理を使用して移行した後、フォームに添付されているビジネス・ルールの正しいプラン・タイプへの割当てが失われるため、手動で解決する必要があります。たとえば、ビジネス・ルールが、プラン・タイプ 2 に関連付けられているフォームに割り当てられている場合、移行後、ビジネス・ルールがプラン・タイプ 1 から抽出されます。

FDMEE

- 13806448 – アーティファクトのインポートの失敗を示す汎用メッセージが表示されます。

Reporting and Analysis

- 13359276 – 「すぐに実行」オプションを使用してバッチを作成およびスケジュールすることで移行したアーティファクトの日付が、「バッチ・スケジューラ」ページの日付列に表示されません。
- 13734372 – 「新規アーティファクトのみ置換」が「はい」に設定されたインポートの後に生成された監査レポートが、インポートされていない古いアーティファクトの監査情報を識別します。
- 13850711、13820579 – Internet Explorer 9: 英語を含む一部のロケールで、アーティファクトのエクスプローラ画面の「検索」ボタンのテキストが切り詰められて表示されます。

Financial Reporting

- 13367741 - 一部の新しいアーティファクトが、わかりやすい名前を使用して識別されません。
- 13628234 - ライフサイクル管理を使用してアーティファクトをインポートした後、単一のグリッドにリンクされた複数のデータ・ソースを持つ Oracle Hyperion Financial Reporting のレポートを開くことができません。

既知の問題

このリリースで注意が必要な既知の問題は次のとおりです。

全般

- 16015404 - ログ分析レポートに一部のメッセージが文字化けして表示されま
す。

回避策: EPM_ORACLE_INSTANCE/bin/loganalysis.bat (Windows)または
EPM_ORACLE_INSTANCE/bin/loganalysis.sh (UNIX/LINUX)を編集して、次の
ディレクティブを追加します:

```
-Dfile.encoding=UTF-8
```

- 16552538 - 日本語にローカライズされた配置から生成されたログ分析レポート
で、一部のメッセージの日本語の文字が文字化けして表示されます。
- 15963289 - Oracle Hyperion Shared Services およびライフサイクル管理のオンラ
イン・ヘルプは、日本語にローカライズされた配置では使用できません。

Shared Services

- 16584509 - Oracle Hyperion Shared Services Console で、FDMEE のアプリケーショ
ン・グループ・ノードの下に文字化けした文字が表示されます。

ライフサイクル管理

サブトピック

- [全般](#)
- [Planning](#)
- [Reporting and Analysis](#)
- [Financial Management](#)
- [Financial Close Management](#)
- [FDMEE](#)
- [Essbase](#)
- [Administration Services](#)
- [Essbase Studio](#)

全般

- 16359541 - 日本語にローカライズされた配置で、コンテキスト依存ヘルプがライフサイクル管理の「アーティファクト・リスト」画面で使用できません。
- 16519401 - アジア言語(日本語、韓国語および中国語)の配置で、アーティファクトの変更レポートをカンマ区切り値(csv)ファイルにエクスポートすると失敗します。
- 16512347 - メタデータに日本語の文字が含まれている場合、ライフサイクル管理より、Financial Management のアーティファクトがインポートされません。
- 16237258 - FDMEE の一部のライフサイクル管理ツールのヒントで、古い名前(ERP Integrator)を使用してコンポーネントが参照されています。
- 16237529 - 一部のエクスポートされたコンテンツおよび移行レポートで、古い名前(ERP Integrator)を使用して FDMEE が参照されています。
- 16234924 - 高コントラスト・モードで、いくつかの表示の問題がライフサイクル管理で確認されています。
- 16071526、16071803、16071436、16051944 - ローカライズされた配置で、一部のライフサイクル管理の画面、メニュー・オプションおよびメッセージが英語で表示されます。
- 16072648 - いくつかのライフサイクル管理のユーザー・インタフェース問題がロシア語と日本語にローカライズされた配置で確認されています。
- 16075552 - エクスポートされたアーティファクトにオペレーティング・システム固有のパスが含まれています。
回避策: ソース環境とターゲット環境のディレクトリ構造が同じでない場合、アーティファクトをインポートした後に、ターゲット環境でパスを手動で編集します。
- 14169397 - Planning のアーティファクトのインポートが同期エラーのために失敗します。
回避策: アーティファクトを再度インポートします。
- 16433230 - ライフサイクル管理のクローン・インポートから「移行定義ファイルのフォーマットが不適切です。」エラーがスローされます。

回避策: ターゲット環境にクローンをインポートする前に、エクスポートしたリポジトリをソース環境からターゲット環境にコピーします。

- 15861796 - アーティファクトの参照中に、ライフサイクル管理からメッセージ「EPMLCM-34040:移行定義ファイルのフォーマットが不適切です。」または「現在サービスを使用できません。」が誤ってスローされます。

回避策: アーティファクトを参照するユーザーに、ライフサイクル管理の管理者役割に加えて、必要な製品の役割があることを確認します。

- 14610626 - 無効な実行コンテキスト ID (ECID)がいくつかのライフサイクル管理のログ・ファイルで確認されています。
- 16412085 - ライフサイクル管理では、Planning アプリケーション名の太文字と小文字が区別されます。これは、アプリケーション名の太文字と小文字が区別されない Planning での処理と整合性がありません。
- 16071814 - Financial Management アプリケーションに基づいて Oracle Hyperion EPM Architect をインポートしているときに、アプリケーションが存在しない場合、ライフサイクル管理から正しくないメッセージ(「現在サービスを使用できません。」)がスローされます。

回避策: EPM Workspace から Financial Management アプリケーションを作成します。

- 16406159 - 日本語にローカライズされた配置から生成された「変更開始」レポートに、ブラウザで設定された優先ロケールに適した書式(dd/mm/yyyy など)ではなく、英語の書式(mm/dd/yyyy)で変更日が表示されます。
- 16616725 - Financial Management データの移行時に、デフォルト以外のフォルダ名を使用した場合、Financial Management のデータ移行問題が確認されています。

Planning

- 7454182 - アプリケーションに要員や Capex が使用可能なプラン・タイプしかない場合、次元メンバーの集計プロパティはライフサイクル管理インポート時に設定されません。
- 8597432 - ライフサイクル管理を使用して次元の行が非表示のフォームをエクスポートする場合、生成された XML ファイルに非表示の次元は表示されませんが、ファイルをインポートした場合、Planning に表示されます。
- 9463209 - ライフサイクル管理を使用して、Oracle Hyperion EPM Architect 対応のアプリケーションの一部の複合フォーム・アーティファクトを、循環依存の問題によりインポートできません。
- 10029734 - ライフサイクル管理を使用してアーティファクトをインポートした後、一部のアーティファクトの順序がソース・アプリケーションの順序から変更される場合があります。
- 10140764 - ライフサイクル管理の移行後、宛先アプリケーションでのディレクトリの順序がソース・アプリケーションでの順序と異なります。
- 10336614 - ライフサイクル管理の移行後、宛先環境でのタスク・リストの順序がソース環境での順序と異なります。

- 10373894 - ライフサイクル管理の移行後、Planning アーティファクト(ビジネス・ルール、カスタム・メニューなど)が、ソース環境での表示順序と異なる順序で宛先環境に表示されます。
- 13403735 - ライフサイクル管理を使用して、空のフォーム・フォルダを移行できません。
- 13496114 - Oracle Hyperion Planning プラン・タイプまたは Essbase データベース名が 8 文字を超えている場合、ライフサイクル管理で、移行する計算スクリプト、ルール・ファイルおよび Essbase 変数を選択できないか、一部のデータおよびアーティファクトが移行されません。
- 13543182 - ライフサイクル管理を使用すると、勘定科目次元に設定されている 2 パス計算フラグが削除されます。

Reporting and Analysis

- 16381870 - ライフサイクル管理により、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace のユーザー・プリファレンスが正しくインポートされません。

回避策: ライフサイクル管理を使用してデータをインポートした後、ターゲット環境でプリファレンスを手動で割り当てます。

- 16318306 - ライフサイクル管理コマンド・ライン・ユーティリティを使用して Oracle Hyperion Reporting and Analysis のアーティファクトをインポートまたはエクスポートしようとする、次の正しくないメッセージがスローされます。

```
GsmNotFound com.brio.one.services.globalservicemanager.GSMEException:
GsmNotFound
```

回避策: Oracle Hyperion Reporting and Analysis サービスが実行されていることを確認してください。

Financial Management

- 11692452 - フォルダ名とフォルダ内のアーティファクト名が同じ場合、Oracle Hyperion Financial Management のインポートが失敗します。

Financial Close Management

- 16066601 - ライフサイクル管理により、タスクおよびシステム設定がエクスポートされません。
- 13899559 - コマンドライン・ユーティリティを使用して Oracle Hyperion Financial Close Management を移行すると、移行に成功した場合でも、コンソールに次のメッセージが表示されます:

```
WLS ManagedService is not up running. Fall back to use system properties for
configuration
```

FDMEE

- 13806446 - FDMEE のアーティファクトをインポートする際、依存ターゲット・アプリケーションが使用できない場合、アプリケーションの定義および HR データロードのルールについて、インポート操作が失敗します。失敗した操作についてエラー・コードが表示されません。
- 13806448 - 移行ステータス・レポートに、ほとんどのアーティファクトのインポートの失敗を示す汎用メッセージが表示されます。
- 16055129 - FDMEE のシステム設定アーティファクトに、オペレーティング・システム固有のパス(<ProfileOptionValue>C:\Test\erpidata</ProfileOptionValue>など)が含まれます。
- 16055154 - ライフサイクル管理を使用してインポートされた FDMEE データ・ロードのルールは、手動の手順が完了するまで、ターゲット環境で実行できません。

回避策: 次の手順を実行します:

1. ターゲット環境で、ソース環境のものと同様のフォルダ構造を作成します。
2. 適切なフォルダにデータをコピーします。
3. Oracle Hyperion Financial Data Quality Management Enterprise Edition で、「構成ファイルを更新して作成」をクリックします。

Essbase

- 14168073 - いくつかのアプリケーションを作成した後に、ライフサイクル管理を使用して多数の Essbase アプリケーションを作成しようとするとう失敗します。
- 16443380 - ディスク・ボリューム・アーティファクトに存在しないドライブ(ドライブ A など)への参照が含まれている場合、Oracle Essbase のアーティファクトのエクスポートは次のエラーで失敗します。

Administration Services

- 16585539 - アプリケーションの作成プロセス中にドリル・スルー定義をインポートすると、移行ステータス・レポートで「完了」としてレポートされます。しかし、Oracle Essbase Administration Services にドリル・スルー定義は表示されません。

Essbase Studio

- 14732042 - 「置換」または「マージ」オプションを使用して Essbase Studio のカタログ・アーティファクトをインポートする際に、カタログ・データがすでにターゲット環境に存在する場合、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System ライフサイクル管理で一部のデータのインポートに失敗します。

回避策: XML ファイルをインポートする前に、ターゲット・カタログのデータ・ソース接続を削除します。

- 14812052 - Oracle Essbase Studio 管理者役割がないユーザーがアプリケーションを参照しようとする時、不適切なエラー・メッセージが表示されます。

ドキュメントの更新事項

EPM System 製品ドキュメントへのアクセス

各 EPM System 製品ガイドの最新版は、OTN Web サイトの EPM System Documentation 領域(<http://www.oracle.com/technology/documentation/epm.html>)でダウンロードまたは参照できます。また、EPM System Documentation Portal (<http://www.oracle.com/us/solutions/ent-performance-bi/technical-information-147174.html>)を使用することもでき、このポータルには、EPM でサポートされているプラットフォーム・マトリックス、My Oracle Support およびその他の情報ソースへのリンクも含まれます。

配置関連のドキュメントは、Oracle Software Delivery Cloud Web サイト(http://edelivery.oracle.com/EPD/WelcomePage/get_form)からも入手できます。

個々の製品ガイドは、Oracle Technology Network Web サイトからのみダウンロードできます。

PDF からのコード・スニペットのコピーと貼付け

PDF ファイルからコード・スニペットを切り取って貼り付ける際、貼付け操作時に一部の文字が失われる場合があります、これによりコード・スニペットが無効になります。回避策: コード・スニペットを HTML バージョンのドキュメントから切り取って貼り付けます。

ドキュメントのフィードバック

製品のドキュメントに対するフィードバックは、次の電子メール・アドレスに送信してください。

EPMdoc_ww@oracle.com

次のソーシャル・メディア・サイトで、EPM Information Development をフォローしてください。

- YouTube - <http://www.youtube.com/user/OracleEPMWebcasts>
- Google+ - <https://plus.google.com/106915048672979407731>
- Twitter - <https://twitter.com/HyperionEPMInfo>
- Facebook - <https://www.facebook.com/pages/Hyperion-EPM-Info/102682103112642>
- Linked In - http://www.linkedin.com/groups?home=&gid=3127051&trk=anet_ug_hm

アクセシビリティの考慮事項

オラクル社では、障害のあるお客様にもオラクル社の製品、サービスおよびサポート・ドキュメントをご利用いただけることを目標としています。EPM System 製品は、製品のアクセシビリティ・ガイドに記載されているアクセシビリティの機能をサポートします。このガイドの最新版は、Oracle Technology Network の Oracle Enterprise Performance Management System ドキュメント・ライブラリ (<http://www.oracle.com/technology/documentation/epm.html>) で入手できます。

また、この Readme ファイルは HTML 形式で表示できます。

著作権情報

Shared Services Readme, 11.1.2.3.000

Copyright © 2013, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

著者: EPM 情報開発チーム

Oracle および Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS:

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。